

## 公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名	石川 信一	所属	同志社大学
研究集会等名称	社団法人日本心理学会 児童青年認知行動療法研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 9名 (うち認定心理士 2名) 非会員 37名 (うち認定心理士 0名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>児童青年認知行動療法研究会では、これまで年1回の研究会を定期的で開催し、最新の研究についての発表や参加者同士の交流の場を設けてきた。今回は「子どもの社会性と認知行動療法」をテーマに、過去の国内外の関連研究を展望するとともに日本で行われている基礎・応用研究の推進を図ることを目的として企画が進められた。当日は46名の参加者があり、昨年の23名から倍増となった。参加者は開催地であった関西以外にも、鳥取、岡山、長野、愛知、宮崎からの参加があった。</p> <p>研究会前半では、子どもの社会性に関する研究の第一人者である宮崎大学の佐藤正二先生を講師としてお招きし、子どもの社会性を「社会的スキル」と「認知行動療法」の観点から展望する講演を実施していただいた。もともとは発達心理学の研究分野から出発した子どもの社会性研究が、教育や臨床の現場において幅広く応用されており、実証的な効果研究において有望な介入成績を収めていることが紹介された。</p> <p>後半は、この分野を代表する若手研究者である、同志社大学の三田村仰先生、愛知教育大学の小関俊祐先生、信州大学の高橋史先生より、子どもの認知行動療法の応用に向けた基礎研究から実践研究に至るまでの最新の知見を報告していただいた。その後、3名の先生をそれぞれ中心としたグループにわかれ、テーマごとの分科会を開催して質疑応答ではカバーしきれなかったより詳しい内容に踏み込んだディスカッションが実施された。</p> <p>昨年度から参加者が大きく増えたことからわかるように、この分野への注目は近年さらに高まっている。しかしながら、子どもを対象とした研究・実践は専門家個人の力で切り開くことに限界のある分野でもあり、専門家同士のネットワーク構築が欠かせない。児童青年認知行動療法研究会は、これまで個人レベルで築かれてきた複数の専門家ネットワークを紡ぎ合わせる役割を果たしてきており、新しい共同研究を計画するきっかけとして活用されている。これらの研究成果は国内外において学会発表、シンポジウム、研修会といった形で報告されており、2013年は札幌で開催される日本心理学会、東京で開催される Asian Cognitive Behavior Therapy Conferenceなどで報告される予定である。</p>		